



# 40周年を迎え これからの鹿児島空港への期待



株式会社日本政策投資銀行 南九州支店長

やまと  
**大和 弘明氏**  
ひろあき



空港というのは、物や人が移動するための重要な通過点です。一番大事なことは、人や物の流れをどんだん創り出すこと。そして、通過点として増加する「人流」や「物流」に対応して、利便性が一層上がるようにスピード感を持って柔軟に姿を変えていくということでしょう。対象は常に変化していくものですが、前例にとらわれず、市場の動きに合わせて柔軟にやり方を変えていく。それが最も期待されている機能だと思っています。

もともと人や物の流れを創り出していく余力があると思います。空港はそれらの動きの妨げにならないよう、物流や交通の拠点として機能性を高めていくことが大切でしょう。

鹿兒島には観光面や食の面をはじめとして、魅力のある資源がまだまだたくさんあります。

鹿兒島空港は、鹿兒島の空港であると同時に、「熊本県南部空港」であり、「宮崎県西部空港」でもあります。県内だけでなく、県外の周辺地域の住民の方々や物流、それに周辺地域を訪れる観光客の人たちにとっても利便性の高い空港です。それらの「人流」や「物流」の需要も吸収する形でインフラ機能を果たしていくことが、これからの空港に期待されていると思います。

株式会社大韓航空 鹿兒島支店長

えがしら  
**江頭 義浪氏**  
よしなみ



鹿兒島はもともと鹿兒島の特性をアピールしないといけないと思います。観光もそうですが、航空路線の基盤は物流です。物流がしっかりしていれば、そこに携わる人の交流が生まれ、またビジネスが新しく生まれていくということになります。そうすると、結果的に鹿兒島空港の利用者の層が厚くなるのではないのでしょうか。

鹿兒島の特産品をもっとPRしていくことが必要です。鹿兒島空港周辺にはお茶畑が広がっています。県外の人の中にはお茶が鹿兒島の特産品ということ知らない方もおられます。鹿兒島の特産品をもっとアピールすることで、物流が生まれ、安定的なものになってくるのではないのでしょうか。

また、国際線の利用については成田空港経由ではなく、ソウル線の仁川空港、上海線の上海空港、台北線の桃園空港をハブ空港としてとらえ、グローバルに広がってほしいものです。そうすることで鹿兒島の「南のゲートウェイ」というものが確立されていくと考えます。

貨物と物流が増えることももちろんですが、鹿兒島は観光地です。例えば、海外からの観光客が鹿兒島空港に到着して鹿兒島を観光し、その後福岡でショッピングをして福岡から出国する。そのように、鹿兒島だけではなく、他の地域の良いところと組み合わせさせて売り出していくことが大事になってくると思います。



南国交通株式会社 代表取締役会長

わたなべ かつみ  
渡邊 勝三氏



交流人口を増やすことが鹿児島空港の今後の発展にもつながっていくと思います。新幹線であれ、バスであれ移動手段は違っても、まずは鹿児島にたくさんお越しいただき、そして鹿児島からもたくさんの方が各地に出て行く。交流人口の拡大は鹿児島空港の利用促進に間違いなく波及効果をもたらします。

それともう一つは、国際線の充実ですね。長年の鹿児島県政のスローガンである「南のゲートウェイ確立」も中身が充実してきたと思います。鹿児島からの国際線が拡大すると、人の交流だけでなく、鹿児島の安心・安全な農水産物・畜産物などの輸出に大きな期待がもてます。朝採れた食材をその日の夕食の食卓に並べることが可能となる地の利を鹿児島はもっています。国内線はもちろんのこと、国際線の充実ということも今後のために

は、極めて大事だと考えています。空港という飛行機に乗る人、降りる人のための施設と思いがちですが、それでは非常にもったいないです。特に鹿児島空港の立地条件でいえば、南九州の3県にまたがるような位置にあります。しかも近くを九州縦貫道が通っています。鹿児島空港は飛行機を利用する人だけではなくて、空港を目的地に人が集まるような形に持つていくことが理想だと思えます。搭乗客ではない方も、空港に行けば楽しいと思わせるようにしていくべきだと思います。

ほかの県にはない鹿児島島の強み、それは始発地でもあり終着地でもある新幹線の鹿児島中央駅、魅力あふれる離島を結ぶ港、そして大型機から小型機まで賑やかに発着している空港。この陸・海・空が、うまく連携し合って相乗効果を出すことが大事だと思います。

## 空港・路線の利用促進のための県の取り組み

九州新幹線が全線開業した現在、空の玄関口としてアジアの拠点都市と直接つながる鹿児島空港の重要性はますます高まっています。県では、路線の安定的運航や利用促進を図るため、さまざまな取り組みを行っています。

### 《国際線の利用促進》

#### ○団体ツアー助成制度

鹿児島空港発着の国際定期路線（ソウル線、上海線、台北線）などを利用して研修・視察や修学旅行のために海外渡航する6人以上の団体・グループに対して、渡航経費（国際定期路線などの航空運賃）の一部を助成する制度です。

#### ○海外ビジネスツアー助成事業

新たな海外ビジネス展開などを目的に、国際定期路線（ソウル線、上海線、台北線）などを利用して渡航先で開催される展示会や商談会などに参加する方を対象に、1人当たり1万円を助成する制度です。

### 《離島航空路線の割引制度》

現在、離島の市町村が発行する「鹿児島離島航空割引カード」を所有する離島の居住者を対象に、航空運賃の割引が実施されています。これは、鹿児島県の管理空港における離島便を対象とした着陸料の軽減措置が拡充されたことを受けて、航空会社がその還元策として実施している割引制度です。

### 《鹿児島空港新時代活性化調査事業》

鹿児島空港を巡るさまざまな現状分析を行うとともに、空港機能の高度化や空港の活性化に向けた今後の方向性や必要な取り組みを調査・検討することとしています。